

4月の果実の見通し

平成31年3月25日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
いちご類	栃木 福岡 静岡 佐賀 など	4,295	95%	4,450	1,094	やや安	999	-	-	3月全般では日々の寒暖差があったが、天候には恵まれ日照量もあった。そのため出荷量の大きな落ち込みはなく、ほぼ横ばいの出荷量で推移した。相場もお彼岸(3月21日)まで保合いとなったが、3月末から4月に入って出荷量は若干増えてくることから荷動きもやや鈍くなると思われる。
メロン類	熊本 茨城 など	861	95%	917	701	並	757	-	-	3月下旬から熊本県産春メロンの出荷が始まる。前年は年明けからの冷え込みで生育遅れも見られたが、本年は順調なスタートとなりそう。中心品種となる「アンデス」も4月半ばには数量まとまってくる。近在産地茨城産の「オトメ」も3月末には販売開始となり、4月の出回り量は前年よりも多くなりそう。3月半ば時点では熊本産抑制作の切上がりが早かったために価格高となっているが、4月に入れば前年並みに落ち着いてこよう。アールスメロンは前年を下回る入荷が続き、しっかりとした価格を維持。
すいか類	熊本 茨城 など	2,056	105%	2,145	362	安	318	-	-	生育が順調で3月の出荷量は前年を上回り、特にこだま西瓜の出荷量は昨年の1.5倍になっている。4月は2月の曇天の影響で中旬にかけて出荷量伸び悩むが前年より若干少なくなる程度で、月間では前年より多い見込み。前年の4月は天候が良く非常に引合いが強かった。本年も平年より気温が高く降水量も少ない予報となっているため引合いは強いが、前年の価格は下回る見込み。
マンゴー	宮崎 など	45	110%	49	3,889	やや安	4,054	-	-	主力の宮崎産は前年より生育早く、3月初めから京浜市場での販売開始となった。前年と比べて増量ペースも早く、4月に向けて日々の販売量も多くなっていく。早めに数量が増えてくることで3月末には販売しやすい価格に落ち着き、4月中は保ち合いでの推移となろう。早い時期から売り込みやすい価格帯となることで、数量が増えて需要期となる『母の日』に向けての売り込みも活発化。荷動きは良い見込み。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)